



5) [主張表現] 自分の意見であることを示す

◆筆者の主張(意見)が書かれている文は、主張表現が使われることが多い。

「~と思う」「~べきだ」「~だろう」「~なければならない」「~てはいけない」「~のではないか*」
などがよく使われる主張表現である。

筆者が何を高く、何を低く評価しているかを読み取ることも大切である。

*「~のではないか」は、疑問提示文にも使われるが、主張表現でも使われる。

★例題8 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

かなり前のことですが、若い友人の作家がぼくにピアノを習いませんか、とすすめたことがありました。

「五木さん、ごらんなさい。ピアニストはみんな驚くほど長命でしょう？ それにいつまでもボケません。あれは両手の指を同時に動かすことが肉体と精神にすばらしくよいということの証拠なんです」

ぼくは彼の言葉には賛成でしたが、今さらバイエル(注1)をさらう(注2)気もせずに笑って辞退しました。

しかし、彼の言葉は正しいと思います。ピアノだけではない。絵を描く人だって、ロクロをひく(注3)人だって、みんな長生きで元気です。ことに彫刻家はすごい。

手を使って何かをすることは、人間にいい影響をおよぼすんですね。しかし、それだけではないんじゃないか。

手を使うだけでなく、手がよるこんでいることが大事だとぼくは思うのです。ピアノを弾くことは指にとってもよろこびです。彫刻も創造的な作業です。絵を描くのも、ロクロをひくのも、みんな創造的なよろこびがある作業です。

ただ指を運動させる、ということとは少しちがうものがそこにはありはしないか。トレーニングとして機械的に指の訓練をすることも悪くはないでしょう。しかし、それだけでは何かたりない。そうです。よろこびをともなうこそ、指は人の生命をいきいきとよみがえらせるのだと思います。

(五木寛之『生きるヒント—自分の人生を愛するための12章—』角川書店)

(注1)バイエル：ピアノの初級テキスト

(注2)さらう：復習、練習する

(注3)ロクロをひく：円形の道具を回して茶わんや花瓶などを作る

【問い】この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 芸術家は両手の指をいつもよく動かしているの、長生きである。
- 2 機械的に指を動かしていれば、創造的な仕事が生まれ、長生きすることもできる。
- 3 指を動かすことが人にいい影響を与えるには、それにとまなうよろこびが必要である。
- 4 指のトレーニングをすることは、人の肉体と精神にいい影響をおよぼす。

全体をつかもう

1) キーワードからテーマを推測する

ピアノ、指、手 → テーマは、手を使うこと？

2) 「主張表現」に注目する

第4段落：…正しいと思います。

第5段落：それだけではないんじゃないか。

第6段落：…大事だとぼくは思うのです。

第7段落：…はしないか。…でしょう。…てこそ…のだと思います。

3) 「対比」に注目して主張を追う

第1～3段落：ピアノをすすめられた体験

第4～5段落：手を使って何かをすることは、人間にいい影響をおよぼす…。

しかし、それだけではないんじゃないか。

第6～7段落：手がよるこんでいることが大事…。

よろこびをともなうこそ、指は人の生命を…よみがえらせる…。

4) 全体をまとめる

指を動かすことは人間にいい影響をおよぼすが、ただ動かすだけではたりない。

よろこびをともなう作業であることが必要だ。

選択肢と比べよう

- 1 : 芸術家の話は例で、筆者の言いたいことではない。
- 2 : 機械的にではなく、創造的なよろこびをともなう指を動かすことで、長生きできる。
- 3 : 正解
- 4 : 機械的に指のトレーニングをするだけではいい影響を与えない。

練習 17 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

日本では、人気の美術展に行くが一番混んでいるのが、入り口の作家の略歴とか解説ボードの前です。入場者はまずここで作家の立派な略歴や作品のすばらしさという能書き(注1)のシャワーをあびて、その通りありがたく鑑賞するのです。そんな人が次に立ち止まるのは教科書に出ている名画とかパンフレットに掲載された作品の前で、見終わった後には話題の「〇〇展」を見てきましたという事実が残るだけです。これでは本当の鑑賞ではなく、単に決められた通りの観光コースを見学してきただけの旅行者と同じです。

評価の定まった作家、人気の作品というのは当然専門家が選んだものであり、その意味で価値のあるものには違いないのですが、それでは単なる追体験に過ぎません。自ら主体的に鑑賞したいならば、まず入り口の略歴とか作品の解説を見る前に作品そのものを観てまわり、自分が好きな作品があったら解説を読み、最後に略歴などをみて理解を深めるという見方をしてみてはどうでしょうか。

(山本冬彦『週末はギャラリーめぐり』筑摩書房)

(注1) 能書き：薬などの効果を示したもの。ここでは、優れた点を並べた言葉

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 美術展にある、作家の紹介や解説は役に立つもので、旅行の観光コースでただ見ていただけの絵が、より深く理解できる。
- 2 美術展を主体的に見るために、まず作品を観てから、好きな作品の解説を読み、略歴を読むことをすすめる。
- 3 美術展では、自分の感受性で気に入った作品を観るべきであり、作家の紹介や解説などは見る必要はない。
- 4 美術展では、入り口の解説の前は混んでいるため、先に作品を観て、次に解説を読み、略歴で理解を深めるほうが効率的である。

練習 18 問いに対する答えとして、最もよいものを一つ選びなさい。

文章には音楽と同じようにリズムがあります。音楽があるテンポで演奏されなければ音楽として聞こえないように、読書もしかるべきスピードで読まないで知識として脳に入っていないのです。僕は「速読(注1)法」という読書方法をあまり評価していません。

速読とはたとえるなら、「ベートーベンの第五シンフォニーを五分で演奏してしまおう」ということに相当します。しかし、そんなことをすればどんなに素晴らしい楽曲でも音楽として成立しません。

文学もそれと同じこと。夏目漱石(注2)の『坊ちゃん』を十分程度でパツパツと読んでしまったら、脳の中で行われる情報処理としては、浅いものにならざるを得ません。

(茂木健一郎『「読む、書く、話す」脳活用術 日本語・英語学習法』PHP研究所)

(注1) 速読：速いスピードで本を読むこと

(注2) 夏目漱石：明治時代の小説家

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 読書と同様に、音楽は演奏が速いスピードで行われると、成立しない。
- 2 速読では音楽と同様にリズムが重要で、スピードが遅すぎると頭に入らない。
- 3 速読は、それにふさわしい音楽とともに行うのが、最も効果的である。
- 4 速読は、音楽の演奏を普通より短時間で終わらせることと同じで、いいと思わない。

【主張表現】

練習 19 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

図書館はどこへいこうとしてるのか。

こづかいが慢性的に足りなかった学生時代、ぼくは最寄りの図書館みつつを同時に利用し、週に十二冊の本を借りだしていた。そのころ読んだ本が、現在の仕事にどれだけ役立っているか、はかり知れない^(注1)ものがある。図書館への感謝の気持ちは、今でも深いのです。

それでも図書館によるベストセラーの購入冊数を知ったときは、あぜんとして^(注2)しまった。話題のベストセラーだけを一館で十冊近くも買いこんでいるのだ。しかも賞味期限が切れたら、同じ本の在庫を抱えるのはスペースの無駄だから、抽選で来館者にあげてしまうという。

リクエストがある、予約待ちが長くなりすぎる。確かにいい分はあるだろう。でも、これがみんなの税金で支える図書館の理想的サービスなのだろうか。

(石田衣良『目覚めよと彼の呼ぶ声がする』文藝春秋)

(注1) はかり知れない：想像できない

(注2) あぜんとする：非常に驚く

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 図書館の予約待ちが長くなりすぎているという今の状況を改善するべきだ。
- 2 学生時代から利用している図書館の理想的サービスに対し、深く感謝している。
- 3 図書館のサービスは、ベストセラーの本を何冊も購入することではないはずだ。
- 4 図書館に何冊もある本を抽選で来館者にあげるとするのは、いいサービスである。

【主張表現】

練習 20 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

「食べるために働く」という言葉があります。人が生存していくには、やはりお金がかかるのであり、お金を得るためには、やはり働かなくてはなりません。いまはさらに「働き甲斐」や「夢の実現」などが働くことの大きなファクター^(注1)になっていますから、仕事があつて、それが自分のやりたいことと一致していれば、言うことはないわけです。

でも、現実にはなかなかそうもいなくて、目の前にあるのは希望とはまったく違うものだけれども、転職するのめたいへんだから、いやいや会社に通っているという人も多いでしょう。子供がいる人などはなおさら自分勝手^(注2)もできず、毎日が我慢の連続かもしれません。ときには「お金さえあつたら好きなことができるのに」「誰かオレを養ってくれないかな」という気持ちになることもあるのではないのでしょうか。

ときどき「もし宝くじで三億円が当たったら、仕事をやめて遊んで暮らす」という言葉を聞くことがあります。たしかに、お金さえあれば働かなくていいような気がします。しかし——と、そこで私は考えるのです。もしお金があつたら、人は本当に働くのをやめるのでしょうか。案外、そうでもないのではないのでしょうか。

(姜尚中『悩む力』集英社)

(注1) ファクター：要素

(注2) 自分勝手：他人のことは考えず、自分の思いどおりに行動すること。

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 人が働くのは収入を得るためだが、お金があつても、働き続けるだろう。
- 2 人はやむを得ない理由で働いており、お金がたくさんあつたら働かないだろう。
- 3 子供がいる人は、金持ちになつたとしても、子供のために働くのをやめない。
- 4 人はお金のために働くのであり、お金があれば自分の夢を実現しようとする。